

令和元年度第2回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 令和元年11月28日(木) 15時30分～17時
2. 会議場 松浦市役所 4階 第4委員会室
3. 出席者
 - 松浦市長 友田吉泰
 - 松浦市教育委員会教育長 今西誠司
 - 〃 教育委員 平原章宏、前田弘子、金井田秀規、氏山智美
 - [事務局] 学校教育課 宮島哲郎
 - 教育総務課 石黒修子、反田隆二
 - 生涯学習課 近藤寿一
 - 文化財課 内野義
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 協議
 - ① 学力向上対策について
 - ② 学校・家庭・地域が連携・協働した教育の推進について
 - (4) その他
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり(要点記録)

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	ただ今から令和元年度第2回松浦市総合教育会議を開催いたします。はじめに、友田市長がご挨拶申し上げます。
市長	皆様、こんにちは。教育委員の皆様には、第2回総合教育会議にご出席を賜りありがとうございます。今回から前田委員にも新たに加わっていただきありがとうございます。子どもたちを取り巻く環境、並びに市民の学習環境ということで、今日の新聞各社の記事に「ゲームの時間が子どもたちに及ぼす影響」が書いてありました。各社によって記事の表現が違いますが、10代、20代の若者が、1日に長い時間ゲームに興じている。大人が儲かるためにやっている事業の影響を子どもたちが受けている。ゲーム産業自体が悪いことだとは思わないが、そういう時代だからこそ対応策を考えていくことが大事。限度をどのようにコントロールしていくか。私自身が小さいときに、長い時間何かをやっていたことがないので、その辺をどのようにコントロールしていくかを、本日の議題のなかで教育委員皆様方のご意見を賜りたいと思っています。よろしく願いいたします。
教育総務課長	続きまして、今西教育長にご挨拶をお願いします。
教育長	教育委員を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。 本日は、今年第2回目となる総合教育会議ということで、こうして、友田市長との協議の場を設けていただき、誠にありがとうございます。

	<p>また、日頃より教育関係の施策にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。</p> <p>現在、教育委員会での取り組んでいる主なもの、また成果としましては、第2期教育振興計画の策定、鷹島小中学校の校舎建設、市の研究指定を受けている星鹿小学校と御厨中学校の授業改善。</p> <p>県民体育大会ではグランドゴルフ男子個人で田中一美さん、60歳以上5kmで今福町の亀野晴俊さんが優勝されました。</p> <p>水中考古学セミナーには全国から51名が受講され、大学関係者や行政担当、市民皆様に鷹島海底遺跡への理解を深めて頂きました。</p> <p>今後も「教育のまち 松浦」に向けしっかりと取り組んでまいります。</p> <p>総合教育会議について、先日行われた「市町教育委員会研究大会」の来賓挨拶の中で、開催地の田上長崎市長から「総合教育会議は教育委員と意見交換する大切な場であり、しっかりと議論し、教育行政に繋いでいくことが大切であると思う」との話がありました。</p> <p>今回は、学力向上対策と「学校・家庭・地域が連携・協働した教育の推進」を協議題にあげて頂いていますので、このことについて、有意義な意見交換ができればと思っています。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>ありがとうございました。それでは、協議に入っていただく前に資料の確認をお願いします。</p> <p>それでは、これから協議に移らせていただきますが、議事進行につきましては、松浦市総合教育会議運営要綱第5条の規定により、友田市長が行います。よろしくをお願いします。</p>
市長	<p>規定により、私の方で、議事進行を務めさせていただきます。</p> <p>議題1 学力向上対策について、学校教育課長に説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>学力向上対策についてですが、お手元に配布しています「令和元年度第2回 総合教育会議資料松浦市児童・生徒の学力向上対策」をご覧ください。</p> <p>松浦市の学力向上対策についてですが、1ページをお開きください。はじめに、松浦市の児童生徒の学力の現状についてですが、全国学力学習状況調査結果の全国平均正答率と本市の平均正答率の比較を平成19年度からグラフにしています。</p> <p>本市では、これまで</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種学力調査を検証軸とした学習指導の改善 ○学力調査結果の公表（R1から平均正答率も公表） ○学校指導訪問を実施し、授業改善に向けた指導の実施 ○市内教職員対象の授業づくり研修会の実施 ○松浦市学力調査の実施（小学校2年生から6年生で、国語・算数、中学校1・2年生で5教科） ○市研究指定校で児童生徒の学力向上に向けた授業改善の研究を実践、市内へ広める ○教育環境の整備（校舎改築、エアコンの設置・電子黒板全教室整備、学校図書館の充実）

○数学非常勤講師の配置（平成28年度から30年度）、教育支援員の配置（平成31年度は市内小中学校に22名）を配置するなど、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな学習指導、特別な配慮をよする児童生徒への指導に指導にも力を入れてきました。

しかし、グラフを見ますと中学校において、平成22年度から25年度まで全国平均正答率を上回っている時期がありましたが、市内小・中学校とも、全ての教科・ほとんどの年度で全国平均正答率を下回っている現状であります。

なお、昨年度までは、全国学力調査は、国語・算数、数学とも、主として「知識」に関する問題のA問題と、主として「活用」に関する問題の調査が行われていましたが、本年度の調査からA・Bと一緒にした問題となっており、折れ線グラフの教科数が少なくなっています。

以上のように学力に課題がある現状ではありますが、県教委と合同の学校指導訪問等において、市内小中学校の授業視察を行った際、県教委からは、どの授業においても学習の「めあて」が示されているなど、教職員が授業改善に取り組む姿が見られるという評価を受けています。

しかしながら、市内小中学校において、校長がリーダーシップをとり、教職員が授業改善に取り組んでいます。結果に結びついていないことを、市教委として重く受け止めています。

児童生徒に生きる力を身に付けさせる土台となる、確かな学力の向上を図るためにも、さらなる授業改善に向けて、教育委員会、市内小中学校が連携した授業改善をより一層充実していくことが大切であると考えています。

また、学力調査等の結果から、児童生徒の学力・学習意欲にばらつきがあることが分かっています。このことから一人一人の子供たちの学力の実態や学習意欲の差を踏まえた、授業改善等、きめ細やかな指導の充実を図る必要があると考えています。さらに、自己肯定感、生活習慣の確立、長時間ネットゲームを行う子供の増加などメディア利用に課題がある児童生徒、家庭学習の習慣化等、家庭・地域と連携した取組の充実が欠かせない状況にもあります。加えて、ここ1・2年で課題となってきたことが、小学校において授業に集中できない児童が増加傾向であるということです。そのことについては、1ページの右上の今日的課題（自己肯定感、人間関係、家族の支え等）のグラフをご覧ください。

これは市内小学校において、学力に課題のある小学校において、児童の実態を把握するために実施したアンケートを円グラフにしたものです。学級の規範意識、学級の絆、生活習慣等に課題があることが分かります。この学校では、授業中に児童が離席するなど授業に集中できないなどの状況が見られ、指導に悩む教職員がいることもわかっており、今後、教育委員会と学校が連携した対策が必要となっています。

以上が本市の学力の現状です。

今後の学力向上対策について御意見をいただきたいと考えていますが、本日の協議の視点としを2ページ目に示しています。

また、参考として3ページ目に学校教育課で考えている今後の学力向上対策を記載しています。ここには、大きく4つの視点で示していますが、本日は、教職員の指導力向上、教育環境の整備、学校・家庭・地域の連携という3の視点について説明します。

はじめに、教職員の指導力向上については

今後も継続する取組として

毎年、学校教育課が実施する学校指導訪問を充実させていきます。この訪問は、1日を使って行うA訪問と半日を使って行うB訪問があります。A訪問では、全ての先生方に1時間の授業を公開してもらい、校長等

の経験豊富な方に、教科等指導員として1対1で授業を参観してもらいます。その上で授業改善に向けた指導助言を1対1でもらう訪問です。

B訪問は、半日を使って学校を訪問し、校長の経営説明後、各教室の授業の様子を10分程度参観し、市教委による授業改善に向けた指導を行っています。この二つの取組は授業改善には欠かせない取組であり今後も力を入れていきます。

次に、市研究指定校の取組ですが、昨年度から2年継続の研究指定としており、現在、星鹿小学校と御厨中学校が研究指定校となっています。11月に2校とも2年間の研究成果を発表する授業公開を行いました。御厨中の取組は、九州都市教育長会で紹介し、不登校の改善等も含め賞賛を受けています。また、星鹿小学校の研究発表は、長崎県弘済会の研究論文の長崎県代表として全国にその内容が報告されています。

さらに、今年度は、長崎大学との連携による長崎大学サテライトオフィス事業に取り組んでおり、理科や英語において大学の先生に講師になっていただき授業改善に努めており、次年度まで継続することになっています。

取組を改善・変更するものとして

現在取り組んでいる授業づくり研修会をさらに充実させていきます。特に、小学校に導入される外国語の授業改善に向けた研修会を充実させています。

また、小学校低学年から学びを充実させるため、現在小学校2年生から実施している、市の学力調査を小学校1年生から実施できないか検討しています。さらに、子供の人間関係・自己肯定感の育成・学ぶ意欲等を把握するためのアンケート調査を学力調査と合わせて実施し、「支持的風土のある学級づくり」「様々な問題を抱えた児童生徒へのきめ細かな支援」等、学力調査の結果と相関を踏まえながら、今日的課題の実態を把握し、授業改善に取り組みたいと考えています。

2点目に教育環境整備については、現在、市内全小中学校に配置していただいている電子黒板を有効に活用できるよう、デジタル教科書の導入を図っていきます。

○ 令和2年度から全小学校に算数・理科で、

○ 令和3年度から全中学校で数学・理科・外国語で導入をする方向で検討しています。導入の時期がずれるのは、教科書の改訂が4年に一度行われ、次の改訂が小学校は令和2年度、中学校が令和3年度からとなっており、新しい教科書の導入に併せて、デジタル教科書の活用を進めたいと考えているからです。

また、児童生徒の学びを支える学校づくりとして

きめ細かな指導の充実のための教育支援員の適正な配置

平成28年度から、中学校の数学で配置していましたが、非常勤講師を御厨小・志佐小学校における少人数指導の充実に向けて配置することで、小学校段階の児童の学習状況に応じた指導の充実を図っていきたいと考えています。

さらに、学校図書館図書蔵書率の100%を達成し、子供たちの読書環境整備を行っていきます。

3点目の学校・家庭・地域と連携した教育の充実では、

今年度作成した、リーフレット「松浦っ子のよりよい成長のために」を活用し、早寝、早起き、朝ごはん、生活習慣の改善、計画的に家庭学習に取り組む子供の育成、保護者と子供の会話を大切にする家庭のコミュニケーションづくり、インターネット等を正しく利用できる子供の育成に力を入れていきます。

	<p>また、全国学力学習状況調査の結果の公表等については、今年度同様、松浦市の平均正答率を公表するなど、市内小中学生の学力の状況を市民に発信し、情報を共有する中で、学校と家庭が連携した学力向上に努めていきたいと考えています。</p> <p>さらに、次年度から市内で1校のコミュニティースクールを設置するように取り組んでいます。このことは、協議事項の2の中で説明します。以上です。</p>
市長	<p>ただいま、学校教育課長から説明がありましたが、委員のみなさまから質問等ありませんか。</p>
氏山委員	<p>教材研究に先生たちはどれくらい費やしておられるのでしょうか。</p>
学校教育課参事	<p>小学校で言いますと、次の日6時間授業の予定があれば、その分の準備が必要です。</p>
市長	<p>アイチェックはどういう観点の設問になっているのか。 「学級の絆」がこんなに低いことに驚くが。</p>
前田委員	<p>クラスの中の学級集団作りを試行錯誤したことがあります。</p>
金井田委員	<p>学力調査を小学校1年から実施したいが、予算がないから2年生からしか学力調査ができていないという現状を、市長はどう考えるか。</p>
市長	<p>全体のバランスを考えて予算の配分をしている。</p>
平原委員	<p>特別支援を必要とする子どもが増えて行っているように思うが。何か原因があるのか。</p>
市長	<p>何か分析されたものがあるか。</p>
学校教育課参事	<p>我々教員の子どもを見る見方が変わったとも思われる。気になる子どもが増えてきているのも事実。</p>
教育長	<p>今回学力調査の結果を初めて公表した。もっと、問合せ等反応があると思っていたが、反応がなかった。</p>
市長	<p>松浦地域には、お母さんたちの支援の場として「ウラッコ」があるが、鷹島、福島地区では支援の場は。</p>
前田委員	<p>以前は、民生委員が面倒をみてくれていた。学校との連携もやってくれていたが、今はそれができていないように感じる。空家を利用して「カフェ」ができれば、シルバー世代をうまく活用して「集いの場」ができるのではないか。地域全体で子どもの支援ができればと思う。</p>

金井田委員	子どもたちと地域の交流は「青年の主張」も以前から続いているし、個人的には「職場体験」の受入を行っている。続けていけたらと思っている。
市長	先程の前田委員の「カフェ」は高齢者の皆さんの集いの場が50箇所できている。そういうところに若いお母さんたちも集えるような環境を作ってあげることで、家庭の在り方を整えてあげることになるのでは。今後の取組の中で、教育環境の整備についても、今後の子どもたちの学習に取り組む態度に影響がでるのではないかと思うが、デジタル教科書のメリットは、どうなのか。
学校教育課 課長補佐	電子黒板についてだが、視覚に訴える手段として有効だと思う。
金井田委員	「ほんなもん体験」の受入を行っているが、学生は、スマホを利用して辞書を見ようとはしない。
学校教育課 参事	デジタル教科書では、動画を見ることもできる。
前田委員	読み聞かせがとても大事だと思う。
市長	それでは、次に、議題2の「学校・家庭・地域が連携・協働した教育の推進について」協議に入ります。学校教育課の説明をお願いします。
学校教育課長	<p>議題2 学校・家庭・地域が連携・協働した教育の推進については、令和2年度市内小学校1校にコミュニティースクールを設置することにより、これまでの取組を加え、連携の推進を図っていきたいと考えています。</p> <p>資料の4ページをお開きください。</p> <p>コミュニティースクールは、長崎県が、令和2年度までに県内21市町すべてに、1校ずつは設置することを目標にされております。また、上志佐小学校では、前任校長の時代からその導入についての準備を進めており、現校長もその方針で学校経営を行っています。資料4ページの上の図は、上志佐小学校がコミュニティースクールの導入に向けて行っている取組です。図に示されていますように、学校の体験活動や体育祭等で学校と地域が一体となった取組がすでに推進されています。</p> <p>下の図は、文部科学省の資料から掲載したものです。コミュニティースクールが教育効果を高めるためには、その図に示されているように、地域の活性化のために動く組織、図の中では地域学校協働本部の働きが重要であり、コミュニティースクールを行う学校における「学校運営協議会」と地域住民が主体となって動く「地域学校協働本部」が両輪となってその役割を果たすことが大切であるとされています。</p> <p>この「地域学校協働本部」については、5ページをお開きください。</p> <p>友田市長の「ともだビジョン」では、「住み続けたい」を実感できるまちづくりの(4)「小学校区を対象としたまちづくり」を活用した地域の</p>

	<p>活性化が示されています。これを踏まえ、市の政策企画課において平成31年度3月29日に施行された、松浦市集落維持対策推進事業補助金交付要綱が施行されました。この補助金を活用するために、学校教育課と政策企画課が横の連携をとりながら、コミュニティスクールの設置を進め、「地域学校協働本部」については、要綱内の「地域運営組織」を活用することで代替することができないか検討をしています。また、「地域運営組織」については、公民館活動を所管している、生涯学習課との連携も図っていく必要があります。</p> <p>5ページの図は、佐世保市のWEBページに記載されているものを掲載させていただきましたが、左図のように、これまで様々な団体が個別に活動していたものを、右図のように連携協働して活動を推進する形に変えていくことにより地域の活性化を図るものです。この図の中にある、「地区自治協議会」が松浦市集落維持対策推進事業では、「地域運営組織」と示されている組織にあたると思います。また、この「地域運営組織」が4ページに文部科学省が示している「地域学校協働本部」にあたる組織であると考えています。</p> <p>このような取組を通して、上志佐小学校にコミュニティスクールを設置するなかで、現在実施している、特別転入学制度に示す、上志佐小学校の特色ある学校づくりを行っていきたいと考えています。</p>
市長	<p>ただいまコミュニティスクールの地域連携について説明がありました。委員の皆様から質問等ございませんか。</p>
学校教育課長	<p>コンサルタントの話の中で、生活習慣の改善の問題についてですが、「夢コミュニティ」「いのちのコミュニティ」「こころのコミュニティ」この3つの柱で地域と連携して取り組んできたということでした。あくまで参考意見ですが。</p>
市長	<p>それぞれの団体が熱心に活動している。高齢者の集いの場に子どもたちが入ってきても問題ない。松浦市では、旧町時代、小学校区単位のコミュニティは、130年前からあった。小学校を核としたコミュニティは出来得ると思っている。ただ、市内全体で進めると言うのは無理があると思うから、どこかモデル地区を作って進められたらと思う。その点、上志佐地域は適していると思う。核となるのは、学校であって、どうかかわっていけるか。</p>
前田委員	<p>地域のことは、地域で解決して行こうという取組は大事だと思う。</p>
市長	<p>平戸市は既にやっていることだし、そういう先進地を見に行ったらどうか。市内のある団体では、10年後のこの地域の年齢分析をして、危機感を共有して、集いの場を活用して何かをやっていこうとはしているが、学校とは結びついていない。そこが課題だと思っている。コミュニティスクールを活用できれば良いのだが。まちづくりに結び付けていくことが大事。</p>
平原委員	<p>他者との関係を保っていくことが大事。公民館活動の中で、いろんな団体が活動している。公民館でせっかくたくさんの方が活動してい</p>

教育長	<p>るので、公民館が核になっていくと良いのでは。</p> <p>調川は公民館を活用して、まさにコミュニティができていると思う。</p>
学校教育課 参事	<p>現状の公民館長に地域コーディネーターをやれというのは、無理がある。専門のコーディネーターが必要。</p>
市長	<p>先進地のなかでは、専門の地域コーディネーターをおいてまちづくりをやっている。市長部局と教育委員会との連携をとりながら、小学校区単位のまちづくりをやっていきたい。</p> <p>他にございませんか。</p> <p>なければ、事務局からどうぞ。</p>
教育総務課	<p>総合教育会議は、1学期ごとに開催する予定です。次回は、3学期で3月の末頃お願いしたいと思っています。</p>
市長	<p>以上をもって令和元年度第2回総合教育会議を閉じさせていただきます。お疲れ様でした。</p>

